

パブリック・マネジメント・シンポジウム 2009

三菱UFJリサーチ&コンサルティングでは、去る2009年11月6日（金）に東京・浜松町のWTCコンファレンスセンター（38階フォントエヌ）において、「パブリック・マネジメント・シンポジウム 2009」を開催した。

シンポジウムには、自治体関係者を中心に、中央省庁、独立行政法人、公益法人、大学、企業関係者など、約220名が参加し、基調講演、成果発表、対話に最後まで熱心に耳を傾け、盛況のうちに終了した。

以下、シンポジウムの背景・目的、シンポジウムの構成、基調講演者の略歴を紹介するとともに、講演録と対話録を掲載する。

■パブリック・マネジメント・シンポジウムの背景・目的

地方自治体の経営をめぐるのは、財政健全化法、国・地方の役割分担、公会計制度、内部統制、公務員制度改革など「外部環境」のドラスティックな変革が起きている。このような厳しい外部環境の中でも、様々な工夫によって、財政難などの困難に立ちむかいつつ、市民や地域社会に価値あるサービスの提供を行うという、「自立経営」を実現している自治体が存在している。

他方、日本全国を見渡すと、財政的に困窮を極めて破綻寸前の自治体や、日々様々な問題に立ち向かいながらも、度重なる改革の結果として疲弊が見られ、市民・行政の双方に無力感が生じるような状況に直面している自治体も数多く見られる。このような自治体においては、経営改革を実現した先進自治体の経験は大いに参考になると考えられる。

今回のパブリック・マネジメント・シンポジウムは、行政機関が直面している経営課題、つまりパブリック・マネジメントにかかる諸問題について、「経営のあり方」の観点から議論し、自治体独自の自主的な経営改革を如何に進めうるのか、その視点やアイデアを先進自治体の経営改革に求め、改革の方向性を検討することを目的としている。そのため、手法は異なりながらも、先進的な自治体の経営改革の取り組みを、その首長として主導された基調講演者の方々のご経験・ご知見をいただくことは、公共経営に携わる関係者の方々が諸課題の解決に向けた取り組みについて検討し、また、行動していくに当たって非常に有意義であると考え、シンポジウムの開催に至った。

今回テーマとするパブリック・マネジメント、いわゆる「公共経営」分野は、弊社が重点と位置づけている分野の一つである。弊社では、これまで自治体や国を中心に、独立行政法人や公営企業など、広く行政機関の経営改革の取り組みに関する調査研究やコンサルティングを実施してきた。当シンポジウムを含め、弊社のこのような活動が、経営改革に携わる行政機関の方々にとって、役に立ち、価値あるものとなるよう日々努力をしているところである。パブリック・マネジメント・シンポジウムは公共経営の問題に取り組む関係者と成果を共有し、検討の輪を広げていく取り組みのひとつであると考えている。

■シンポジウムの構成

主催者挨拶 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 取締役社長 水野俊秀

1. 基調講演 テーマ：「地方自治体のマネジメント改革の取り組みと成果」

◆「地方分権（地域主権）改革はどう動くのか」 東京大学公共政策大学院 客員教授 増田寛也 氏

◆「市民自治を理念とした自治体改革」 中央学院大学社会システム研究所 教授 福嶋浩彦 氏

◆「自律自治体の形成を求めて」 山梨学院大学法学部 教授 西寺雅也 氏

◆「佐賀市役所でのマネジメント改革の取り組みの成功と失敗」 木下敏之行政経営研究所 代表 木下敏之 氏

2. 研究成果報告 テーマ：「地方自治体のマネジメント改革の個別課題と解決の方向性」

◆発表者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) パブリック・マネジメント推進室 荒川潤

3. 対話 テーマ：「地方自治体の『自立経営』の在り方について考える」

◆対話参加者：増田寛也 氏、福嶋浩彦 氏、西寺雅也 氏、木下敏之 氏

◆コーディネーター：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) パブリック・マネジメント推進室 荒川潤

閉会挨拶 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 政策研究事業本部長 清水誠